

平成25年度事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

平成25年度の本県の畜産を巡る情勢は、畜産物価格は福島原子力発電所事故の影響から回復し、肉用子牛を始め総じて堅調に推移した。

一方、円安等による配合飼料・燃料等生産資材の高騰や、大雨・台風等気象災害が多発するなか、6月は観測史上最も少ない降水量を記録するなど、春以来の少雨により牧草が減収するなど生産コストが大幅に上昇し、収益性の低下を余儀なくされた。

更に、福島原子力発電所事故から3年目の年度を迎えたが、引き続き草地の除染、汚染牧草や汚染堆肥の処理等が実施され、加えてTPP交渉も予断を許さない緊迫した状況が続くなど、気の抜けない一年であった。

このような厳しい情勢のなか、本会が、引き続き、本県畜産の主産地形成と維持発展の一翼を担っていくため、岩手県が定めるいわて県民計画、酪農及び肉用牛生産近代化計画、家畜及び鶏の改良増殖計画及び諸事業並びに農協等生産者団体が進める諸対策について、関係機関・団体と密接な連携を図り、総力を結集し、畜産経営や飼養管理技術の指導・支援、家畜改良及び自衛防疫の推進、安全かつ良質な畜産物の生産のための検査・指導、及び肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る補填金の毎月交付、肉用牛肥育経営体等に対しつなぎ資金として交付した緊急支援金等の返還回収等各般にわたる事業を積極的に推進した。

また、公益法人制度改革に対応し、本会は4月1日をもって一般社団法人に移行し、新たなスタートを切った。これに対応し、移行認可計画に即し、諸事務を適正に処理するとともに、事業の的確な実施を図った。

重点的に推進した事項

- 1 認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供、研修会の開催。
- 2 家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
- 3 東北ブロック生乳検査業務の円滑な推進。
- 4 家畜登録（乳用牛・豚）、家畜人工授精用精液流通調整、家畜自衛防疫、生乳検査、肉用牛肥育経営安定特別対策等の事業の実施に伴う各種情報等の効率的活用。
- 5 本県肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛躍進運動等生産振興に寄与。

I 実施事業

1 継続事業 1

畜産経営者に対する生産技術及び畜産経営の改善指導、安全良質な畜産物の生産及び家畜の健康保持に係る知識の普及啓発、畜産及び家畜衛生に関する調査、研究、広報並びに情報の収集提供、家畜の改良促進、家畜伝染性疾病の予防・まん延防止等を推進した。

1) 畜産技術指導促進事業（独自事業－162千円）

地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産指導を行った。

会議・・・20回・20人、研修会・・・2回・2人、指導・・・7回・7人

2) 「岩手の畜産」発行事業（独自事業－1,342千円）

畜産に関する情報、経営管理技術・家畜衛生等の情報資料を掲載した「岩手の畜産」を発行し、畜産関係指導機関・団体及び主な経営診断農家等に配布した。（隔月奇数月 1,700部発行）

3) 養豚動向調査事業（独自事業－8千円）

需要に見合った豚肉生産の推進、施策の立案に資するため、養豚生産者を対象に飼養戸数・頭数調査（平成25年8月1日現在）を実施した。

飼養戸数・・・144戸、子取り用雌豚頭数・・・44,272頭

4) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

（農水省補助事業－2,497千円、預かり補助金21,591千円）

死亡牛の適正な処理並びに円滑なBSE検査を実施するため、死亡牛の収集・輸送及び化製処理に要した経費に対し助成した。

(1) 地方事業推進・・・死亡牛整理票の配布

(2) 支払対象農家数、頭数・・・1,403戸、4,084頭

5) 家畜改良推進事業〔生涯生産性向上対策〕

（農水省補助事業－預かり補助金2,075千円）

生涯生産性等の評価に必要な乳用牛の体型データ等を収集し、酪農家が目指す経営方針に適した牛群の整備を推進した。

体型データ等の収集及び指導に要する経費への補助

体型等のデータ収集頭数・・・830頭

6) 肉用牛肥育経営等緊急支援事業（岩手県補助事業－1,200千円）

福島第一原子力発電所事故に起因しての肉用牛の出荷の停止や自粛等による資金繰りの悪化に対応し、交付した出荷遅延支援金の返還に係る業務を行った。

調査指導回数・・・37回

7) 家畜共進会開催事業（岩手県補助・独自事業－2,511千円）

畜産振興の基礎となる家畜の改良増殖を推進し、併せて畜産農家相互の研鑽と改良意欲の高揚を図るため、県下一円を対象とした畜種別の第57回岩手県畜産共進会を開催した。

	開催日	出品頭数	開催場所
黒毛和種の部	平成25年9月3日	74頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種の部	平成25年9月4日	74頭	同上
日本短角種の部	平成25年9月5日	36頭	同上
馬の部	平成25年9月13日	13頭	馬っこパーク・いわて
肉牛の部	平成25年11月2日	110頭	(株)岩手畜産流通センター

8) 地域畜産支援指導等体制強化事業（地全協補助事業－12,190千円）

国・県の畜産振興施策を補完し、地域における総合的な見地から地域畜産振興を推進するため、技術指導に要する経費への補助を受け、畜産経営の支援体制強化や畜産に対する理解増進等以下の取組を行った。

(1) 畜産経営の支援体制強化

① 畜産生産基盤育成強化

ア. 対象者：個別支援・・・述べ189件、地域支援・・・地域セミナー11ヵ所×1回

イ. 内容：個別支援・・・県内の畜産農家（乳用牛、肉用牛、養豚、肉用鶏）の畜産コンサルタントを実施した。

地域支援・・・県内の畜産農家を対象とした地域セミナーを11回開催した。

② 担い手女性研修

ア. 対象者：女性の集い・・・40名

イ. 内容：本県の肉用牛生産意欲を高めていくため、肉用牛に携わる女性の集いを開催した。

③ 乳質改善推進

ア. 対象者：県下一円の酪農経営体

イ. 内容：岩手県乳質改善協議会並びにJA、農業改良普及センター等と連携し、乳質改善のデータ収集を行うとともに、改善を必要とする農家の搾乳機器の診断を実施した。

ミルキングシステム診断428基、バルククーラー点検375基

④ 乳用牛群検定推進

ア. 対象者：県下一円の牛群検定加入酪農経営体

イ. 内容：乳用牛の検定成績を県内加入組合にフィードバックし、繁殖成績及び能力の向上のための指導を行った。

⑤ 養豚動向調査

ア. 対象者：県内養豚農家

イ. 内 容：需給に見合った豚肉生産の推進、施策の立案に資するため、養豚生産者を対象に、飼養戸数・頭数調査を実施した。

飼養戸数・・・144戸、子取り用雌豚頭数・・・44,272頭

⑥ 畜産技術指導促進

ア. 対象者：畜産農家及び関係機関・団体

イ. 内 容：地域研修会や会議等へ参加し、一般畜産技術指導を行った。

会議・・・20回・20人、研修会・・・2回・2人、指導・・・7回・7人

⑦ 家畜生産農場清浄化促進

ア. 対象者：県内一円の牛飼養農家及び発生農場

イ. 内 容：岩手県ヨーネ病発生農場清浄化促進対策協議会のもと、牛ヨーネ病発生農場の同居牛の淘汰等に対し助成し、牛ヨーネ病の発生予防、まん延防止、早期清浄化を推進した。

(2) 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供推進

① 岩手県畜産共進会の開催

ア. 対象者：県下一円の一般消費者、生産者

イ. 内 容：県内一円を対象に共進会（乳牛、黒毛、短角、馬、肉牛）を開催し、家畜改良増殖の促進と畜産農家相互の技術研鑽を図るとともに、畜産に対する理解増進に努めた。

② 広域広報活動（「岩手の畜産」の発行）

ア. 対象者：経営診断農家、畜産関係機関・団体

イ. 内 容：畜産に関する情報、経営管理技術、家畜衛生等の情報資料を掲載し、隔月奇数月の年6回（各1,700部）作成・配布した。

③ 畜産協会のPR

ア. 対象者：JA、市町村、来客、業務用他

イ. 内 容：「一般社団法人岩手県畜産協会の概要」を500部作成、協会の取組を広く紹介し畜産に対する理解増進を図った。

④ 地域家畜共進会の開催支援

ア. 対象者：市町村、JA、同志会等

イ. 内 容：各地域における家畜共進会の開催を支援し、畜産の活性化を図った。

(3) 馬事普及の推進体制の強化

① 地域畜産普及啓発事業

ア. 対象者：競馬ファン 600名（畜産物加工品の配布対象人数）

イ. 内 容：平成25年11月16日に水沢競馬場で畜産フェアを開催し、先着入場者に対し畜産加工品の無料配布を行い、競馬ファンの集客に努めるとともに馬事・畜産の普及啓発、畜産物の消費宣伝を行った。

また、10月20日、11月16日の冠レースに会長賞を授与した。

② 主要馬産地におけるイベント開催支援

ア. 対象者：東北馬力大会参加者

イ. 内 容：本県は馬産地であり、県内の主産地で開催された馬力大会を支援し、馬事文化の普及啓発を推進した。

9) 馬の改良増殖奨励事業（地全協補助事業－1,271千円）

農用馬の生産及び優良種雄馬の維持活用を図るため、飼養者または管理者に対して奨励金を交付した。

(1) 優良種雄馬繁殖奨励〔種付け奨励〕

家畜改良増殖法に基づく種畜証明書の交付を受け、年間の種付け頭数が、純粋種にあつては1頭以上、純粋種以外にあつては10頭以上の農用雌馬に種付けした種雄馬飼養管理者に対し奨励金を交付した。

種雄馬・・・8頭、種付け頭数・・・63頭、交付額・・・496,000円

(2) 子馬生産奨励〔生産奨励〕

農用馬の生産拡大を積極的に誘導して生産意欲の高揚を図るため、農用種雌馬を飼養し、子馬を生産して日本馬事協会の種馬登録規程に基づく血統登録を受けた飼養者に対して奨励金を交付した。

交付頭数・・・34頭、交付額・・・771,000円

10) 肉用牛経営安定対策補完事業〔地域における肉用牛生産基盤強化等対策〕

（機構補助事業－5,073千円、預かり補助金69,009千円）

肉用牛生産基盤強化対策、地域の特色ある肉用牛振興対策等肉用牛に係る経営安定対策を補完する取組に対し、奨励金及び補助金を交付した。

(1) 肉用牛生産基盤強化対策

① 中核的担い手育成増頭推進

計画的に繁殖雌牛を増頭した中核的担い手に対し、増頭実績に応じ奨励金を交付した。

実施団体数・・・7農協、交付頭数・・・66頭

② 優良繁殖雌牛導入支援

地域の改良に必要な優良繁殖雌牛の導入を通じて地域の改良基盤を維持するため、導入計画に基づき生産者集団等が雌牛を購入し、農業者等に貸し付けを行っ

た生産集団等に対し、奨励金を交付した。

実施団体数・・・7農協、交付頭数・・・267頭

③ 肉用牛ヘルパー推進

肉用牛生産の労働負担の軽減を図るため、傷病時等の肉用牛ヘルパー作業を実施した肉用牛ヘルパー利用組合に対しヘルパー活動に要した経費を補助した。

実施団体数・・・4組合

④ 肉用牛振興推進指導

①から③の事業を円滑に実施するため、事業の調査指導等を実施した。

会議開催・・・1回

肉用牛ヘルパーの実態調査・・・14組合

調査指導回数・・・37回

(2) 地域の特色のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種等の振興

生産者集団等が、地方特定品種の維持強化を図るため実施した次の取組に対して補助した。

ア. 特徴ある牛肉生産等：実施団体数・・・1農協、16集団

イ. 計画出荷対策：実施団体数・・・1農協、交付頭数・・・439頭

② 山振地域における肉用牛振興

生産者集団等が、山振地域における肉用牛振興のために実施した次の取組に対して補助した。

ア. 優良子牛適正出荷推進：実施団体数・・・3農協、交付頭数・・・5,028頭

③ 地域の特色のある肉用牛生産推進指導

①から②の事業を円滑に実施するため、事業の調査指導等を実施した。

会議開催・・・1回

調査指導回数・・・12回

11) 酪農経営安定対策補完事業〔牛群検定システム高度化支援事業〕

(機構補助事業－48千円、預かり補助金16,321千円)

乳中尿素窒素データ、ボディコンディションスコア(BCS)等のデータの収集及び指導を実施し、飼養管理技術の向上と受胎率低下等の繁殖障害・疾病の改善を図った。

(1) 生乳品質改善計画の策定並びに純タンパク含量に関するデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助・・・14検定組合

(2) 飼養管理改善計画の策定並びにBCS等のデータ収集及び酪農家への指導に要した経費への補助・・・14検定組合

12) 家畜防疫互助基金造成等支援事業（機構補助事業－3,664千円）

口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病が発生した場合に備え、その影響を緩和し、経営の再建を支援する互助基金制度について、家畜飼養者への周知を図り、基金への加入を促進した。

(1) 地方推進会議・・・2回

(2) 加入戸数及び頭数

乳用牛 830戸、38,359頭（戸数加入率70.3%、頭数加入率84.3%）

肉用牛 4,024戸、76,968頭（戸数加入率66.5%、頭数加入率79.3%）

豚 58戸、335,160頭（戸数加入率42.3%、頭数加入率71.1%）

（注）飼養戸数、頭数は農林水産省畜産統計(平成25年2月1日)

13) 畜産特別資金等推進指導事業（中畜補助事業－4,242千円）

畜産経営指導機関、関係金融機関、生産者団体等で構成する畜産特別資金岩手県支援推進協議会を開催し、統一的な指導方針の策定を行い、関係機関・団体協調のもと畜産特別資金借受者に対し経営再建指導を行った。

(1) 岩手県支援推進協議会の開催・・・委員会1回、幹事・指導班員会議3回

(2) 融資機関への指導助言・・・25ヶ所

(3) 借受者への改善計画作成・見直し及び達成指導・・・68戸（計画作成4戸、計画見直し14戸、計画達成現地一般指導45戸、計画達成現地濃密指導5戸）

(4) 経営改善のための指導資料作成・配布・・・3回

(5) 借受者の進捗状況・実績点検調査・・・進捗状況調査1回、実績点検調査2回（上期・下期）

(6) 借受者に対する濃密指導・・・月次モニタリングの実施、経営データ調査5戸（酪農4戸、肉牛1戸）

(7) その他推進事務等・・・全国会議4回、ブロック会議1回、地方審査会等6回

14) 育成馬等予防接種推進事業（中畜補助事業－146千円）

馬伝染性疾病の予防接種を計画的に実施し、発生予防に努めた。

(1) 対象疾病・頭数・・・日本脳炎 32頭、三種混合 37頭、馬インフルエンザ 36頭

(2) 対象地域・・・遠野市

(3) 対象馬・・・軽種馬、乗用馬、農用馬 延べ105頭

15) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中畜補助事業－265千円）

馬の飼養衛生に関する調査及び普及啓発を行った。

(1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催・・・1回

(2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催・・・1回（40名）

(3) 地域馬獣医療実態調査・・・99戸

16) 衛生体制強化基金事業（中畜補助事業－109千円）

各種予防接種事業を効果的に推進するため、各地域協議会における地域推進会議の開催を支援するとともに、啓発資料を作成・配布した。

(1) 地域推進会議・・・5回

(2) アカバネ病予防接種推進パンフレット作成・配布・・・11,000部

17) 民間グループ被災地畜産農家救援活動事業〔被災地畜産振興に係る人的支援事業のうち生産者団体支援〕（畜産経営支援協議会補助事業－2,536千円）

福島第一原子力発電所事故の発生以降に収集された高濃度の放射性セシウムを含む稲わらが給与された肉用牛から食品衛生上の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことに伴い、被災を受けた肉用牛肥育農家に対し交付した肉用牛肥育経営緊急支援事業に係る緊急支援金等の返還に係る業務を行った。

(1) 全国会議への出席・・・2回

(2) 交付した緊急支援金等の返還業務の実施

(3) 農協等への巡回指導・・・述べ22回

18) 畜産生産基盤育成強化事業（岩手県受託事業－5,931千円）

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営を確立するため、経営支援指導を実施した。

(1) 畜産経営体支援指導研究会

① 委員会の開催・・・1回

② 畜産経営技術指導報告書作成

(2) 畜産経営技術の総合支援指導

① 個別支援指導・・・延べ189件

畜産経営体に対する個別指導により畜産経営技術の高度化を図った。

ア. 経営診断に基づく改善指導・・・10件

経営分析による問題点の把握とその改善のための指導を行った。

イ. 経営管理技術指導・・・49件

経営管理技術の高度化を図るため、経営分析手法を用いて損益計算書、貸借対照表等の財務諸表を作成するための巡回指導を行った。

ウ. 生産技術指導・・・70件

生産技術の高度化を図るためのワンポイント指導を行った。

エ. フォローアップ指導・・・60件

畜産経営体に対する各種の助言、指導内容の定着を図るため、定期的な巡回指導を行った。

② 地域支援指導・・・地域セミナーの開催 11回

経営技術の高度化及び畜産を巡る諸情勢等をテーマとして、畜産経営体等を対象とした地域セミナーを開催した。

(3) 畜産経営関係情報のホームページによる提供

畜産経営に関する情報をデータベース化し、リアルタイムに情報提供を行った。

19) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業 (岩手県受託事業-545千円)

乳用牛群検定普及定着化事業で得られた情報データを集積及び分析し、情報提供・指導を実施した。(対象:14検定組合)

(1) 情報データを集積及び分析し、成績書として取りまとめ配布した。

(2) 検定組合への巡回指導を実施した。(14検定組合×1回)

(3) 検定加入促進を図った。

20) 図書支援事業 (中畜受託事業-490千円)

中央畜産会が発行した月刊誌「畜産コンサルタント」及び畜産に関する書籍等を幹旋配布し、畜産の知識・技術の普及啓発を行った。

年間販売実績・・・月刊誌 505冊、書籍 10冊

21) 乳用種初生牛生産費調査事業 (中畜受託事業-255千円)

畜産振興施策の基礎資料に資するため、乳用種初生牛の生産費等生産実態を調査した。

(1) 調査戸数・・・酪農経営 15戸

(2) 調査対象期間・・・平成24年4月1日から平成25年3月31日までの1年間

22) 生産地等馬伝染性疾病防疫強化特別対策事業 (中畜受託事業-408千円)

競走馬以外の乗用馬及び農用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種による清浄化の促進、並びに軽種馬の繁殖牝馬に対する馬鼻肺炎ワクチン接種の徹底を図り、馬防疫を推進した。

ワクチン接種頭数

馬インフルエンザ・・・80頭

馬鼻肺炎・・・6頭

23) 農場HACCP認証普及推進支援対策事業 (中畜受託事業-216千円)

生産農場の調査を実施し、農場HACCP認証普及の課題を明らかにした。

調査戸数・・・3戸

24) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

(畜産近代化リース協会受託事業-1,151千円)

畜産近代化リース協会が貸し付けした施設・機械の物件確認と管理状況の調査及び適正な利用方法について技術指導を実施した。

また、新たな貸付者の開拓のため、リース制度のPRに努めた。

(1) 対象物件確認基数…100基

(2) 対象農家数…87戸

(3) 調査項目

① 貸付契約書の保管状況

② 対象機械の機種・製造番号等の確認

③ 物件の契約状況

④ 施設の保守管理状況

⑤ 物件の稼働状況

(4) 新規開拓のための事業推進

家畜市場、岩手県畜産共進会、その他畜産農家が集まる催事等でのPR活動（述べ11回）

25) 日本政策金融公庫資金（農林水産事業）活用推進事業

（日本政策金融公庫受託事業－100千円）

公庫資金の活用を推進するため、畜産経営体への公庫資金の情報提供等を行った。

（1回）

26) 地域自衛防疫強化特別対策事業（家畜衛生対策推進協議会受託事業－653千円）

畜産農家での初動防疫活動や地域特定疾病対策等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習を実施し、生産現場における家畜防疫体制の強化を図った。

(1) 地方推進会議…2回

(2) 防疫演習の実施…4回

27) ミルクシステム診断事業（独自事業－6,631千円）

乳房炎の発生予防並びに乳質の向上のため、県内酪農家の搾乳機械の作動状況・保守点検・搾乳方法について診断指導を実施した。

(1) 対象農協数…7農協

(2) 診断戸数…ミルクシステム診断428戸、バルククーラー点検375戸

(3) 実施基数…ミルクシステム診断428基、バルククーラー点検375基

2 継続事業2

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、契約肥育牛を販売した者に対し、肥育牛補填金を昨年度に引き続き毎月交付し、肥育経営の安定を支援した。

1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（機構補助・独自事業4,095,470千円）

肉用牛肥育経営は、素牛の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占める素畜費の割合が大きいことから、素畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者の積立金及び独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肉用牛肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）を造成し、肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、契約肥育牛を当該月に販売した者に対し、肥育牛補填金を交付し、肉用牛肥育経営の安定を図った。

また、第1業務対象年間（平成22年4月～平成25年3月の3年間）が、平成24年度で終了したことから、基金を拠出した契約生産者に対し肥育安定基金残額の返戻（無事戻し）を実施した。

- (1) 契約生産者数……466戸
- (2) 事務委託先数……10ヶ所

[事務委託先詳細：順不同]

全国農業協同組合連合会岩手県本部	岩手ふるさと農業協同組合
(一社)岩手県配合飼料価格安定基金協会	岩手江刺農業協同組合
新岩手農業協同組合	いわて平泉農業協同組合
花巻農業協同組合	大船渡市農業協同組合
岩手中央農業協同組合	岩手県畜産農業協同組合

※平成26年3月1日に岩手南農協といわい東農協が合併し、いわて平泉農協となった。

(3) 基金の造成及び補填金交付実績

① 肥育安定基金造成実績（平成25年2月～平成26年1月）

生産者積立金及び農畜産業振興機構補助金の肥育安定基金造成実績は以下のとおり。

(単位：頭、円)

品種区分	区分	頭数	単 価 (生産者積立金)	肥育安定基金造成負担区分		合 計
				生産者積立金	機構補助金	
肉専用種	H24年度	1,675	13,000	21,775,000	65,325,000	87,100,000
	H25年度	11,255	18,000	202,590,000	607,770,000	810,360,000
	小 計	12,930	—	224,365,000	673,095,000	897,460,000
交 雑 種	H24年度	1,030	30,000	30,900,000	92,700,000	123,600,000
	H25年度	5,339	30,000	160,170,000	480,510,000	640,680,000
	小 計	6,369	—	191,070,000	573,210,000	764,280,000
乳 用 種	H24年度	483	30,000	14,490,000	43,470,000	57,960,000
	H25年度	1,972	25,000	49,300,000	147,900,000	197,200,000
	小 計	2,455	—	63,790,000	191,370,000	255,160,000
合 計	H24年度	3,188	—	67,165,000	201,495,000	268,660,000
	H25年度	18,566	—	412,060,000	1,236,180,000	1,648,240,000
	合 計	21,754	—	479,225,000	1,437,675,000	1,916,900,000

② 補填金交付実績（平成25年2月～平成26年1月販売分）

肥育安定基金から月毎に補填金を交付した実績は以下のとおり。

区 分	品種区分	交 付 対 象		肥育牛補填金	
		人 数	頭 数	単 価	交 付 額
		(人)	(頭)	(円)	(円)
平成24年度 2月期 (平成25年2月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	11	295	78,300	23,098,500
	乳 用 種	7	197	69,200	13,632,400
	小 計	18	492		36,730,900
平成24年度 3月期 (平成25年3月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	12	404	45,800	18,503,200
	乳 用 種	5	192	65,600	12,595,200
	小 計	17	596		31,098,400
平成25年度 4月期 (平成25年4月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	15	463	38,700	17,918,100
	乳 用 種	4	190	63,900	12,141,000
	小 計	19	653		30,059,100
平成25年度 5月期 (平成25年5月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	15	421	33,900	14,271,900
	乳 用 種	7	220	56,000	12,320,000
	小 計	22	641		26,591,900
平成25年度 6月期 (平成25年6月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	16	558	35,200	19,641,600
	乳 用 種	7	272	45,700	12,430,400
	小 計	23	830		32,072,000
平成25年度 7月期 (平成25年7月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	16	629	65,400	41,136,600
	乳 用 種	7	302	43,200	13,046,400
	小 計	23	931		54,183,000
平成25年度 8月期 (平成25年8月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	13	550	62,800	34,540,000
	乳 用 種	7	204	48,600	9,914,400
	小 計	20	754		44,454,400
平成25年度 9月期 (平成25年9月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	16	514	53,500	27,499,000
	乳 用 種	5	181	45,500	8,235,500
	小 計	21	695		35,734,500
平成25年度 10月期 (平成25年10月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	18	550	40,000	22,000,000
	乳 用 種	5	174	41,700	7,255,800
	小 計	23	724		29,255,800
平成25年度 11月期 (平成25年11月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	19	639	14,200	9,073,800
	乳 用 種	4	144	41,400	5,961,600
	小 計	23	783		15,035,400
平成25年度 12月期 (平成25年12月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	15	697	6,900	4,809,300
	乳 用 種	6	188	45,300	8,516,400
	小 計	21	885		13,325,700
平成25年度 1月期 (平成26年1月)	肉 専 用 種	0	0	0	0
	交 雑 種	15	414	40,700	16,849,800
	乳 用 種	6	148	42,600	6,304,800
	小 計	21	562		23,154,600
合 計	肉 専 用 種	0	0		0
	交 雑 種	181	6,134		249,341,800
	乳 用 種	70	2,412		122,353,900
	合 計	251	8,546		371,695,700

(4) 肥育安定基金残額の返戻（無事戻し）

第1業務対象年間終了時における肥育安定基金残額の返戻(無事戻し)を以下のとおり実施した。

(単位：円)

品種区分	返 還 先		
	生 産 者	機 構	計
肉 専 用 種	314,363,978	963,036,478	1,277,400,456
交 雑 種	105,032,957	315,079,552	420,112,509
乳 用 種	19,403,264	58,203,150	77,606,414
合 計	438,800,199	1,336,319,180	1,775,119,379

(5) 肥育経営安定推進 (機構補助事業 - 12,173千円)

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肉用牛肥育経営の収益性が悪化した時に肥育牛補填金を交付するための肉用牛肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）の造成と補填金交付に係る事務を円滑に実施した。

- ① 県内推進会議の開催・・・1回
- ② 事務委託先等への現地調査・指導・・・35回
- ③ 肥育牛個体登録から補填金交付に係る事務
- ④ 事務委託先への個体識別技術料の支払・・・10ヶ所、3,076千円

(6) 推進事務 [生産者手数料] (独自事業 - 19,295千円)

肉用牛肥育経営安定特別対策事業を遂行するために必要な経費の一部について、受益者である契約生産者から事務費負担金（実費相当額を限度）として生産者手数料を徴収し、事業を円滑に推進した。

- ① 協会の推進事務費
人件費、旅費、消耗品費等
- ② 事務委託先の推進事務費
事務委託先・・・JA等10の生産者団体

2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業（岩手県補助事業 - 44,702千円）

(1)基金事業(43,702千円)

岩手県、市町及び農業協同組合からの補助金等をもって日本短角種肥育経営安定特別基金（肥育安定基金）を造成し、日本短角種肥育経営の収益性が悪化したときに補填金を交付し、もって経営の安定と日本短角種牛肉の安定供給を図った。

① 基金造成実績（負担区分：県1/2、市町1/4、農協1/4）

区 分	戸数（人）	頭数（頭）	単 価（円）	補助金等（円）
岩 手 県	25	647	12,500	8,087,500
盛 岡 市	2	28	6,250	175,000
久 慈 市	15	336	6,250	2,100,000
二 戸 市	1	80	6,250	500,000
岩 泉 町	7	203	6,250	1,268,750
新岩手農業協同組合	24	642	6,250	4,012,500
岩手中央農業協同組合	1	5	6,250	31,250
合 計	25	647	-	16,175,000

※合計欄の戸数、頭数は実数

② 補填金交付実績（平成25年2月～平成26年1月販売分）

肉用牛肥育経営安定特別対策事業により一般社団法人岩手県畜産協会が交付する肥育牛補填金の額が日本短角種の平均粗収益と平均生産費との差額の8割に相当する額に満たない時に、当該額と肥育牛補填金の額との差額（40千円を上限）を交付した。

肥育安定基金から月毎に補填金を交付した実績は以下のとおり。

区 分	市町村区分	交付対象		補填金額	
		人数（人）	頭数 ① （頭）	補填金単価 ② （円/頭）	補填金交付額 ③ = (①×②) （円）
平成25年2月分	盛 岡 市	1	1	40,000	40,000
	久 慈 市	11	21	40,000	840,000
	二 戸 市	1	6	40,000	240,000
	岩 泉 町	3	14	40,000	560,000
	合 計	16	42	-	1,680,000
平成25年3月分	盛 岡 市	1	2	40,000	80,000
	久 慈 市	10	35	40,000	1,400,000
	二 戸 市	1	6	40,000	240,000
	岩 泉 町	4	15	40,000	600,000
	合 計	16	58	-	2,320,000
平成25年4月分	盛 岡 市	2	3	40,000	120,000
	久 慈 市	13	35	40,000	1,400,000
	二 戸 市	1	6	40,000	240,000
	岩 泉 町	6	17	40,000	680,000
	合 計	22	61	-	2,440,000
平成25年5月分	盛 岡 市	1	1	40,000	40,000
	久 慈 市	13	38	40,000	1,520,000
	二 戸 市	1	6	40,000	240,000
	岩 泉 町	7	20	40,000	800,000
	合 計	22	65	-	2,600,000
平成25年6月分	盛 岡 市	0	0	40,000	0
	久 慈 市	13	33	40,000	1,320,000
	二 戸 市	1	6	40,000	240,000
	岩 泉 町	6	20	40,000	800,000
	合 計	20	59	-	2,360,000

区 分	市町村区分	交付対象		補填金額	
		人数 (人)	頭数 ① (頭)	補填金単価 ② (円/頭)	補填金交付額 ③ = (①×②) (円)
平成25年7月分	盛岡市	1	2	40,000	80,000
	久慈市	9	25	40,000	1,000,000
	二戸市	1	6	40,000	240,000
	岩泉町	6	20	40,000	800,000
	合 計	17	53	-	2,120,000
平成25年8月分	盛岡市	1	1	40,000	40,000
	久慈市	10	17	40,000	680,000
	二戸市	1	9	40,000	360,000
	岩泉町	7	20	40,000	800,000
	合 計	19	47	-	1,880,000
平成25年9月分	盛岡市	1	3	40,000	120,000
	久慈市	13	27	40,000	1,080,000
	二戸市	1	7	40,000	280,000
	岩泉町	7	26	40,000	1,040,000
	合 計	22	63	-	2,520,000
平成25年10月分	盛岡市	1	3	40,000	120,000
	久慈市	13	30	40,000	1,200,000
	二戸市	1	9	40,000	360,000
	岩泉町	5	19	40,000	760,000
	合 計	20	61	-	2,440,000
平成25年11月分	盛岡市	1	2	40,000	80,000
	久慈市	14	55	40,000	2,200,000
	二戸市	1	6	40,000	240,000
	岩泉町	5	19	40,000	760,000
	合 計	21	82	-	3,280,000
平成25年12月分	盛岡市	2	5	40,000	200,000
	久慈市	11	20	40,000	800,000
	二戸市	1	6	40,000	240,000
	岩泉町	5	19	40,000	760,000
	合 計	19	50	-	2,000,000
平成26年1月分	盛岡市	2	2	40,000	80,000
	久慈市	11	24	40,000	960,000
	二戸市	1	8	40,000	320,000
	岩泉町	4	13	40,000	520,000
	合 計	18	47	-	1,880,000
総 合 計	盛岡市	14	25	-	1,000,000
	久慈市	141	360	-	14,400,000
	二戸市	12	81	-	3,240,000
	岩泉町	65	222	-	8,880,000
	合 計	232	688	-	27,520,000

(2)推進事務 (1,000千円)

会議の開催等を行い、日本短角種肥育経営安定特別対策事業の適正かつ円滑な推進を図った。

- ①肥育安定基金造成及び補填金交付事務
- ②会議の開催・・・1回

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業 (農水省補助・独自事業 - 234,599千円)

家畜伝染性疾病の発生予防並びにまん延防止を図るため、次の事業を実施した。

1) ヨーネ病防疫推進対策

飼養者が自主的に行うヨーネ病同居牛等の淘汰の円滑な推進を図り、ヨーネ病まん延防止、早期清浄化を促進した。

対象戸数、頭数・・・4戸、5頭

2) オーエスキー病清浄化推進対策

清浄種豚の流通促進を図るため、種豚生産農場の出荷予定豚の抗体検査を実施した。

対象戸数、頭数・・・7戸、4,839頭

3) 発生・流行防止対策

牛及び豚の特定疾病の流行防止のため、組織的な予防接種の推進を図った。

なお、BVD・MD持続感染牛等のまん延防止のため、市場上場する肉用妊娠牛への牛五種混合(不活化)・牛六種混合(生・不活化)ワクチンの接種が新たに必要となったことから、これらの接種頭数が増加した。

- (1) アカバネ病予防接種・・・・・・・・・・47,536頭 (前年比96.5%)
- (2) 牛五種混合(生) 予防接種・・・・・・・・27,526頭 (前年比96.5%)
- (3) 牛五種混合(不活化) 予防接種・・・・・・5,465頭 (前年比159.8%)
- (4) 牛六種混合(生・不活化) 予防接種・・・4,107頭 (前年比372.7%)
- (5) 牛ヘモフィルス予防接種・・・・・・・・23,987頭 (前年比100.5%)
- (6) 豚丹毒(生) 予防接種・・・・・・・・・・154,304頭 (前年比96.6%)
- (7) 豚丹毒(不活化) 予防接種・・・・・・35,580頭 (前年比54.4%)

4) 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

対象疾病の発生農場における清浄化対策に要する経費の一部を助成した。

- (1) 補助件数・・・23件
- (2) 対象疾病・・・ヨーネ病、サルモネラ症、ウイルス性下痢・粘膜病

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業（独自事業－46,534千円）

県内の大家畜飼養者に対し、本会が指定するサブセンターを通じて家畜人工授精用精液等を安定的に供給し、もって本県の家畜改良増殖の推進に寄与した。

なお、凍結精液分譲本数は、乳用牛・肉用牛ともに飼養頭数の減少により前年を下回ったが、受精卵分譲本数は、酪農家を中心に後継牛確保への性選別精液の利用が高まり増加した。

- 1) 凍結精液分譲本数……108,115本（前年比93.5%）
乳用牛……42,913本（前年比89.0%） 肉用牛……65,202本（前年比96.8%）
- 2) 受精卵分譲本数……422本（前年比147.0%）
乳用牛……86本（前年比156.4%） 肉用牛……336本（前年比144.8%）
- 3) 液体窒素供給量……53,114kg（前年比98.2%）
- 4) 受胎調査報告等会議の開催……1回
 - (1) 出席者……18名（受胎調査員9名他）
 - (2) 受胎率（平成24年1月1日～12月31日授精分）……乳用牛46.0%、肉用牛61.3%
- 5) サブセンター家畜人工授精担当者県外研修
 - (1) 参加者……9名（人工授精担当者7名他）
 - (2) 研修先……鹿児島県、熊本県
 - (3) 研修内容……鹿児島県及び熊本県における種雄牛及び熊本県乳牛共進会を視察研修した。
- 6) サブセンター家畜人工授精担当者会議の開催……1回
参加者……37名（人工授精担当者28名、関係機関・団体等9名）
- 7) 家畜改良に関する情報の提供……86回
凍結精液等の供給業務において情報誌の配布や情報交換等を実施した。

2 その他事業2

家畜登録事業（独自事業－34,579千円）

家畜改良を促進し、生産基盤の確保と所得向上を図るため、関係機関・団体の協力のもと、乳用牛及び豚の血統登録・登記等家畜登録事業を実施した。

なお、登録取扱件数は、乳用牛は自動登録により伸びたが、豚は、子豚登記が肉豚仕向け増により、また、移動が日本養豚協会登録制度の改正により減少した。

- 1) 家畜登録取扱件数

(1) 乳用牛……9,101件（前年比111.6%）

① 血統登録……5,903件（前年比116.0%）

② 牛群審査……1,164件（前年比99.7%）

③ 検定成績……693件（前年比111.1%）

④ 移動他……1,341件（前年比105.1%）

(2) 豚……2,667件（前年比78.6%）

① 子豚登記……1,756件（前年比82.9%）

② 移動他……231件（前年比39.1%）

③ 種豚登録……672件（前年比99.6%）

④ 指定農場……8件（前年比80.0%）

〈明 細〉 遺伝資源保存指定種豚場 3 農場、黒豚生産農場 2 農場

海外合成豚原々種豚場 2 農場、系統維持施設証明指定 1 農場

2) 研修会及び会議出席

(1) 東北地区登録委員研修会（ホルスタイン種）

① 開催月日……平成25年7月22日～23日

② 開催場所……福島県郡山市

③ 出席者……本県受講者2名

(2) 中央審査研究会

① 開催月日……平成25年9月25日～27日

② 開催場所……北海道新ひだか町

③ 出席者……本県受講者1名（本会）

(3) 東日本地区種豚登録講習会（豚）

① 開催月日……平成25年10月17日～18日

② 開催場所……福島県泉崎村

③ 出席者……本県受講者1名

(4) 冬期登録事務担当者会議（ホルスタイン種）

① 開催月日……平成26年2月5日

② 開催場所……東京都中野区

③ 出席者……本県出席者1名（本会）

3 その他事業3

生乳検査事業（独自事業－85,659千円）

東北生乳販売農業協同組合連合会及び東北地区の農業協同組合、牛群検定組合等から

委託又は依頼された生乳について検査を実施した。

なお、飼養頭数の減少等により、検査対象乳量は前年を下回った。

1) 取引試料乳検査（検査対象乳量 575,917,345kg、前年比97.9%）

(1) 配分検査試料乳

① 成分及び体細胞数検査 69,061件（前年比95.1%）

② 細菌数検査 68,886件（前年比95.0%）

(2) 集乳及び配送試料乳検査 48,719件（前年比97.1%）

2) 牛群検定試料乳検査 580,983件（前年比97.6%）

3) 依頼試料乳検査

(1) 成分及び体細胞数検査 24,194件（前年比84.2%）

(2) 細菌数検査 7,416件（前年比54.0%）

4) 外部精度管理

（公財）日本乳業技術協会が生乳検査施設を対象に実施する技能試験を受け、脂肪率、無脂乳固形分率、体細胞数の精度の維持と検査技術の向上を図った。（4回）

※検査項目

・成分検査……脂肪率、乳蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素。ただし、集乳及び配送試料乳については、脂肪率、無脂乳固形分率の2項目。

・体細胞数検査

・細菌数検査

4 その他事業4

先進的な研修会等への本会職員の派遣や地方公営競馬の支援等を行い、指導者の育成及び畜産団体の機能向上を図った。

1) 職員技術研修事業（独自事業－376千円）

関係機関・団体が行う先進的な研修会等に本会職員を派遣し、知識・技術の向上を図った。

研修会、講習会……10回・11人

2) 北海道・東北畜産協会職員研修事業（独自事業－91千円）

北海道・東北ブロック畜産協会職員研修会に参加し、畜産に関する知識・技術の習得並びに諸情報の交換を行った。

開催場所……山形県米沢市、開催日……10月3日～4日

参加者……8名

3) 岩手競馬支援特別対策事業（独自事業－317千円）

本県の畜産振興を図るうえで、地方競馬全国協会の畜産振興補助事業は重要かつ不可欠であるが、地方競馬は、全国的に低調で畜産振興補助事業の更なる縮小が懸念されることから、地方公営競馬を支援するため、盛岡競馬場・水沢競馬場において、次の事業を実施した。

(1) 冠レースへの会長賞授与・・・2回

もみじ賞競走（10月20日盛岡競馬場）

ノベンバーカップ競走（11月16日水沢競馬場）

(2) 岩手競馬ファン感謝サービスの実施・・・1回

11月16日水沢競馬場で畜産加工品を無料配布（600個）

(3) 畜産物等の消費宣伝

岩手競馬ファン感謝サービスに合わせて、畜産品の展示販売を実施。

4) 畜産関係団体調整機能強化事業（中畜受託事業－247千円）

11月4日盛岡競馬場において、岩手競馬ファン大感謝祭を開催、先着700名に畜産物加工品を配布し、岩手競馬を側面的に支援した。